

2011年 モチベーション予想 調査報告書

株式会社JTBモチベーションズ
2011.01.

JTB 
Motivations *your motivation partner*

◆調査結果サマリー

「2011年モチベーション予想」調査

- 2011年、自分のモチベーションは69点、上司のモチベーションは62点。
- 経営層のモチベーションは上昇、管理職層は現状維持。
- 金融・保険業、情報通信業のモチベーションは「高め」、上昇予想。
- モチベーションがもっとも「上がる」地方は関東地方、九州地方。
- モチベーションが上がる理由は「自分でやる気を高めたり維持するよう意識するから」「今の仕事が好きだから」
- 2011年の目標は「確実に、安定した仕事」と「仕事と私生活のバランス」

JTB グループの人事コンサルティング会社、株式会社ジェイティービーモチベーションズ(東京都港区 代表取締役社長:市川正資)は、全国の15歳から65歳までの企業に勤める人618人に対し、2011年モチベーション予想調査を行い、2011年のモチベーションに関する予想や向上方法を聞き、結果をまとめました。

本調査は、景気の先行きが不透明な中、企業人の今年のモチベーションがどう推移するか、またそれは、役職、地方、業種などでどのように異なるかを探り、効果的な対策を検討する材料とするために実施したものです。

【調査結果概要】

【1】 2011年、自分のモチベーションは69点、上司のモチベーションは62点。

2011年のモチベーションを100点満点で得点化してもらいました。自分のモチベーションは70点台の人が最も多く、平均は69点でした。「直属の上司」の2011年のモチベーションを推測してもらったところ、40点台(20%)が70点台(21%)に次いで多く、平均点も62点と辛めでした。上司のモチベーションは、部下から低く見られているようです。

【2】 2011年、モチベーション「上がる」人は30%。

経営層のモチベーションは上昇、管理職層は現状維持。

2011年のモチベーションが上がると思うか、下がると思うかを聞いたところ、「今のレベルを維持する」との回答がもっとも多く、54%、「上がる」と答えた方は30%でした。役職別に見ると、「役員・経営者クラス」では、41%がモチベーションは「上がる」と答えています。一方、「管理職」は、「現状維持」が62%と最も多く、「上がる」人は32%でした。

【3】 金融・保険業、情報通信業のモチベーションは「高め」、上昇予想。

2011年のモチベーションを業種別にみても、モチベーションが「上がる」と答えた人が、もっとも多いのは「金融・保険業」で41%でした。「金融・保険業」は、100点満点での点数化でも、平均72.0点と、業界内トップでした。情報通信業が、次いで「上がる」の割合が高く、平均点も71.6点と高めです。

逆にモチベーションが低下傾向にあるのが「サービス業」でした。

【4】モチベーションがもっとも「上がる」地方は関東地方、九州地方。企業規模とモチベーションの関連はない。

2011年のモチベーションを地方別に見ると、「関東地方」が「上がる」人が34%と全国で一番高い結果となりました。「九州地方」は32%と2番目に高く、また、100点満点での点数化でも平均72.3点と日本で一番高い値を記録しました。逆に、モチベーションが「上がる」人が少ないのは「中国・四国地方」で23%、「北海道・東北地方」で25%でした。企業規模別では、特に傾向性などは見られませんでした。

【5】モチベーションが上がる理由は「自分でやる気を高めたり維持するよう意識するから」「今の仕事が好きだから」

モチベーションが「上がる」もしくは「今のレベルを維持する」理由で、もっとも多かったのは「自分でモチベーション(やる気)を高めたり、維持するよう意識しているから」で33%、次いで「今の仕事が好きだから」で25%でした。意識すること、「好き」という気持ちがあること、といういずれも自分自身に関わることが2大要因となりました。

【6】モチベーションが下がる理由は「給与やボーナスに満足していないから」

モチベーションが「下がる」理由でもっとも多かったのは、「今の給与やボーナスに満足していないから」で59%が選択しており、2番目に多い「がんばっても成果が出ないだろうから」の34%を大きく上回りました

【7】モチベーションアップのためには「とりあえず仕事にとりかかる」「信頼できる仕事仲間と話をする」。

モチベーションを上げるためにやっていることを聞いたところ、「とりあえず仕事にとりかかる」が48%ともっとも多く、次いで「信頼できる仕事仲間と話をする」が35%で、3位の「友人と飲みに行く」の16%を大きく上回りました。

【8】2011年の目標は「確実に、安定した仕事」と「仕事と私生活のバランス」

2011年の仕事についての目標を聞いたところ、「確実に安定した仕事をしていきたい」が43%、「仕事と私生活のバランスを取ることを大切にしたい」が42%となりました。もっとも選ばれなかったのは、「独立・起業したい、または、その準備をしたい」で7%、次いで「社内外の人脈を広げ、さまざまな人と一緒に仕事をしたい」で8%でした。経済環境がいまだ不透明な中、独立したり、人脈を広げたりするよりは、安定した仕事をしたい、また、仕事だけではなく私生活も大切にしたい、という働く人の意識が表れた結果となりました。

■調査概要

■調査方法:	インターネットリサーチ
■調査地域:	全国
■調査対象者:	18-65歳の社会人の男女 ※パート・アルバイト・自営業を除く
■有効回答者数:	618サンプル (男性:308サンプル 女性:308サンプル)
■実施期間:	2010年12月27日(月)~2010年12月28日(火)

■回答者属性

	人数	%
全体	618	100.0
<性別>		
男性	309	50.0
女性	309	50.0

<年齢>		
15才~19才	1	0.2
20才~24才	12	1.9
25才~29才	75	12.1
30才~34才	118	19.1
35才~39才	76	12.3
40才~44才	61	9.9
45才~49才	69	11.2
50才~54才	119	19.3
55才~59才	55	8.9
60才~65才	32	5.2

<居住地>		
北海道・東北地方	59	9.5
関東地方	284	46.0
中部地方	85	13.8
近畿地方	110	17.8
中国・四国地方	39	6.3
九州地方	41	6.6

<役職>		
役員・経営者クラス	34	5.5
管理職 (部長・本部長・課長・次長クラス)	85	13.8
一般社員 (係長・主任・一般社員クラス)	430	69.6
派遣社員・契約社員	67	10.8
その他	2	0.3

<企業規模>		
100人未満	269	43.5
100人~500人未満	130	21.0
500人~1,000人未満	51	8.3
1,000人~5,000人未満	85	13.8
5,000人~10,000人未満	29	4.7
10,000人以上	54	8.7

<職種>		
営業・販売系 (営業、企画営業、店頭販売、電話販売など)	114	18.4
顧客対応、サービス系 (各種顧客対応、保守・運用サービス、コンサルティングなど)	75	12.1
管理、企画系 (総務、人事、財務、法務、経営、広報、販売促進、各種本部機能など)	200	32.4
技術、開発、製造系 (技術、開発、研究、デザイン、設計、製造関連など)	162	26.2
その他【 】	67	10.8

<問い合わせ先> JTBモチベーションズ 菊入・田上 03-5410-9362

■まとめと提言

1. 役職別モチベーション格差の解消

職位が上になるほど、モチベーションは上がる予想が多く、平均点も高いことが明らかになりました。一般社員のモチベーションは低いということです。しかし、職場でもっとも人数割合が多く、実際の業務に当たったり、接客の最前線で対応を行なっているのは一般社員です。

業績向上、組織の活性化のためには、役職によるモチベーション格差を解消し、多くの社員が高いモチベーションで働く環境を作ることが必要です。自律性、有能感、まわりからの支援を感じる事が、内から湧き上がる「内発的動機付け」の基本です。「仕事を任せられている」「その仕事をやり遂げることができる」「まわりからサポートされる」と思えるような職場の仕組みや人間関係を作りましょう。

2. 上司の魅力アップ

多くの方が、上司のモチベーションを、自分より低く推測しました。自由記述でも「やる気のない上司が辞めそうだから」2011年はモチベーションが上がる、といった回答が見られました。

部下からみて、上司はやる気がないように見えることが多いようです。上司自身が、仕事を心から楽しみ「内発的動機付け」を持つことが、上司のイメージ向上につながります。JTBモチベーションズの「仕事と恋愛に関するモチベーション調査」では、「仕事を楽しむ人は、男女双方からモテる」という結果が明らかになりました。部下のいる方は、自身のモチベーションを再考し、また組織としても管理職への対策を講じる必要があります。

3. セルフ・モチベーションアップのために

調査から、数多くのセルフ・モチベーションアップのヒントが得られました。回答者が、実際に使っている「モチベーションアップ策」を参考にしましょう。

A. モチベーションを意識する

2011年のモチベーションが「上がる」「現状維持」と答えた人の多くが、その理由を、「自分でモチベーション（やる気）を高めたり、維持するように意識しているから」としました。「自分のモチベーションは、自分で上げる」という気持ちが大切だということが分かります。

意識する方法としては、今回の調査のように、自分のモチベーションを点数にしてチェックすることが、上げられます。これはからだの健康で言えば、「体重測定」のようなものです。まずは、自分のモチベーションの高さを知り、どういときに高くなるか、低くなるか、適正値ほどの程度かを把握しましょう。

B. 仕事を好きになる

モチベーションが「上がる」「現状維持」の理由として、2番目に多かったのが、「今の仕事が好きだから」でした。仕事の「好きなどころ」を見つけましょう。これまで、どのようなときに「仕事が楽しい」「おもしろい」と思ったでしょうか。自分が仕事を「好き」と思うときの、共通点を探して下さい。「人と二人で話しているとき」「ほめられたとき」などが分かってくれば、そのような機会を増やすよう、意識して行動してみましょう。「人と二人で話す場面を作る」「ほめられるとがんばれます、と宣言する」など、やり方を工夫しましょう。

C. 仕事をしながら、モチベーションを上げる

「やる気を上げるためにやっていること」として、「とりあえず仕事にとりかかる」がもっとも多く選択されました。あまり考えこまずに、仕事を始めてしまい、仕事をしながらモチベーションを上げるのが秘訣のようです。まず、今担当している仕事に、できるかぎり集中してみましょう。例えば、1日の仕事の中でも、「今から90分、集中しよう」と、自分に言って、取りかかってみるのです。いつもより、おもしろさや楽しさが味わえると思います。

D. 仕事仲間との信頼関係を構築する

やる気を上げるためにすることとして2番目に多かったのが、「信頼できる仕事仲間と話をする」という回答でした。職場でいっしょに働く人たちとの信頼関係を築きましょう。まずあいさつから入り、ふだんの仕事でも、「なにか私にできることはある？」といった声かけから始めて、助けたり助けられたり、というやりとりをしてみましょう。職場の仲間との信頼関係は、仕事上でもモチベーション上でも、働く人の大切な財産です。

E. 仕事以外で、モチベーションがあがることを持つ

仕事以外でも、旅行、ドライブ、ショッピング、スポーツなど多彩なモチベーションアップ策が抽出されました。自分に合ったモチベーションアップの秘策を持っておきましょう。

4. 視野を広げる

2011年の仕事についての目標は、「確実に、安定した仕事」「私生活とのバランス」に集中しました。まずは、そのような基盤を作りながら、さらに、視野を広げることもおすすめします。挑戦や、専門性の深まり、人脈の拡大などは、モチベーションを刺激する要素です。このようなキーワードも、あわせて念頭に置き、チャンスがあればトライしてみましょう。新しいモチベーションを獲得するきっかけになります。

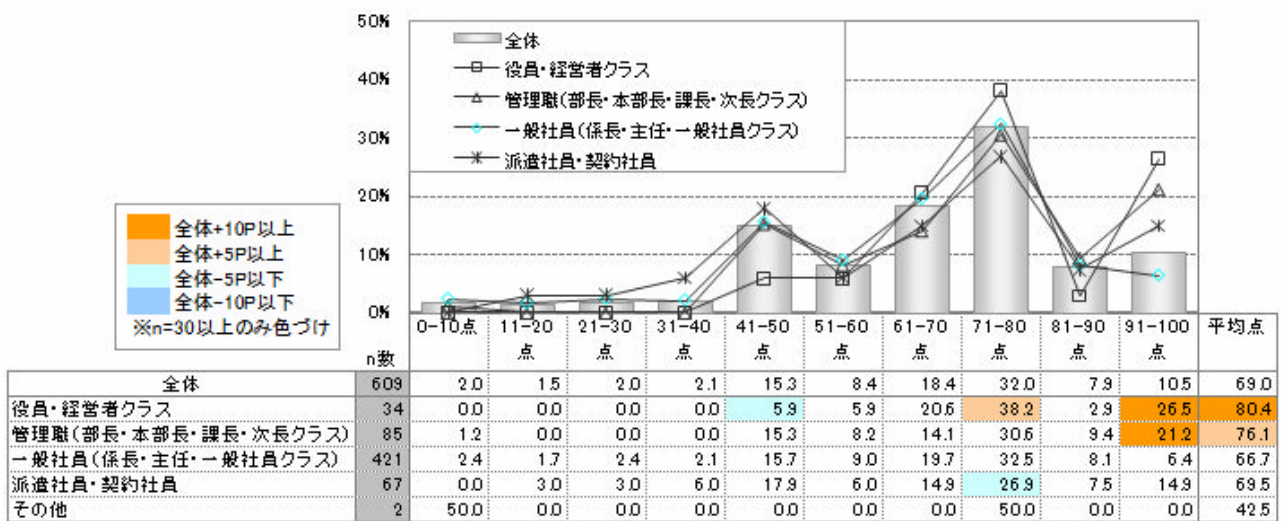
【1】2011年、自分のモチベーションは69点、上司のモチベーションは62点。

2011年の自分のモチベーションを、100点満点で得点化してもらいました。その際、100点は『いい仕事をしよう』『がんばろう』という気持ちが強く感じられる状態、0点は「仕事をする気がせず、働こうという気持ちにならない状態」だとイメージしてもらいました。

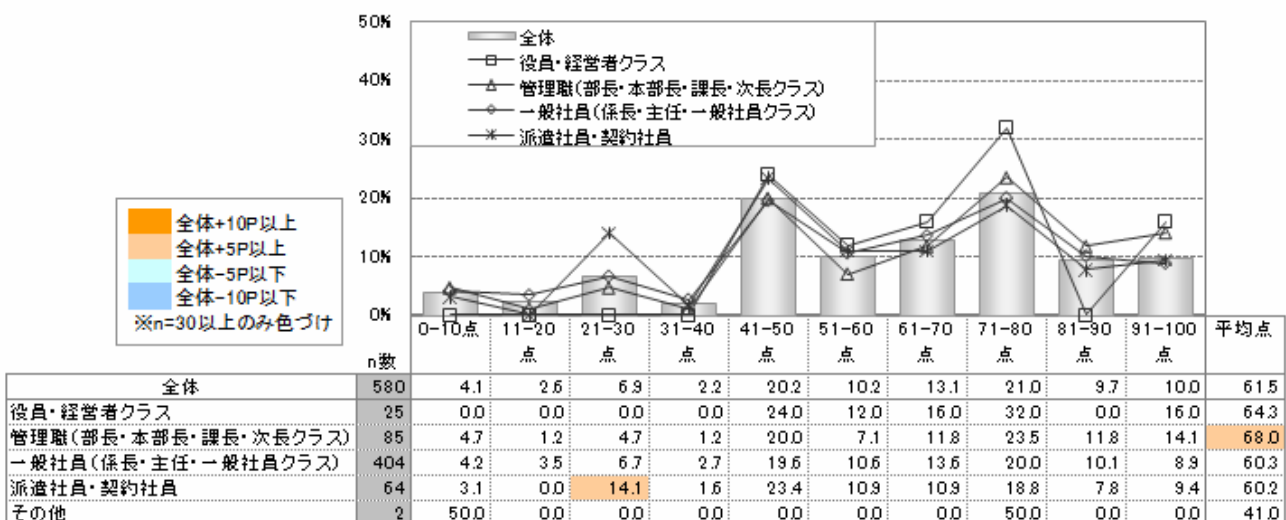
自分のモチベーションは70点台の人が最も多く、平均は69点でした。特に「役員・経営者クラス」のモチベーションが高く、平均点は80点を超えました。【図1】

「直属の上司」の2011年のモチベーションを推測してもらったところ、40点台(20%)が70点台(21%)に次いで多く、平均点も62点と辛めでした。上司のモチベーションは、部下から低く見られているようです。【図2】

【図1】2011年モチベーション得点の分布(自分)



【図2】2011年のモチベーション得点の分布(上司)



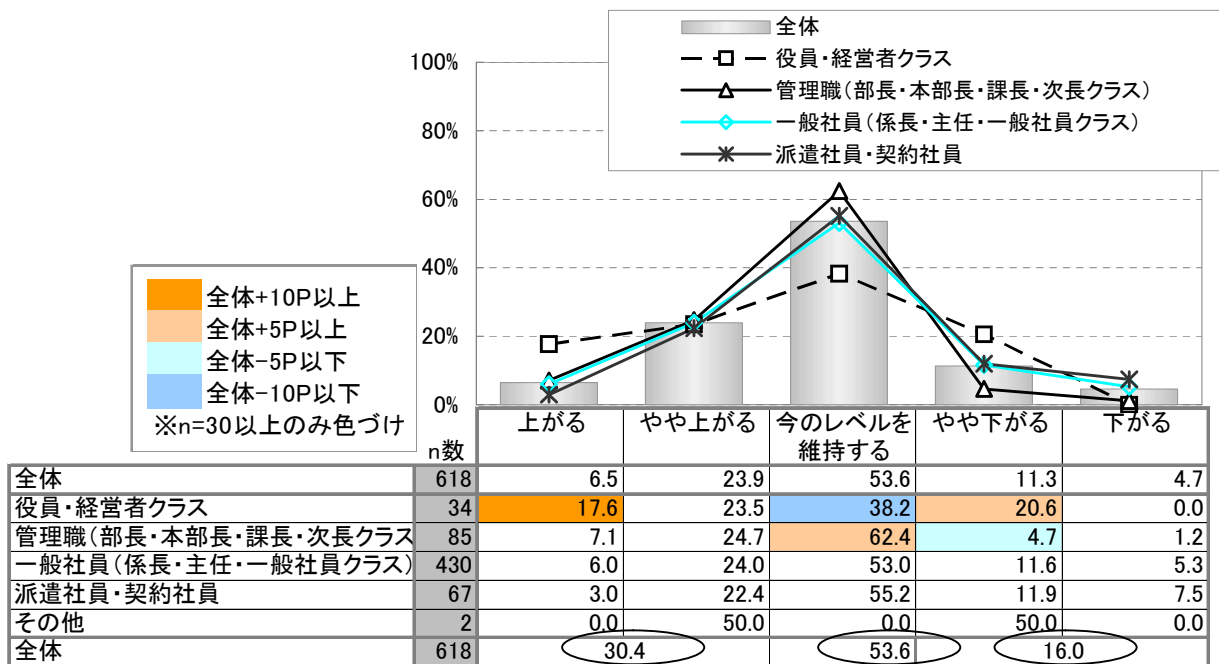
【2】2011年モチベーション「上がる」人は30%、「今のレベルを維持」が54%。
経営層のモチベーションは上昇、管理職層は現状維持。

2011年のモチベーションが上がると思うか、下がると思うかを聞いたところ、「今のレベルを維持する」との回答がもっとも多く、54%となりました。「上がる」と答えた方は30%で、維持する、上がる、を合わせると、87%でした。「下がる」は16%で、全体からみると小さい数値でした。【図3】

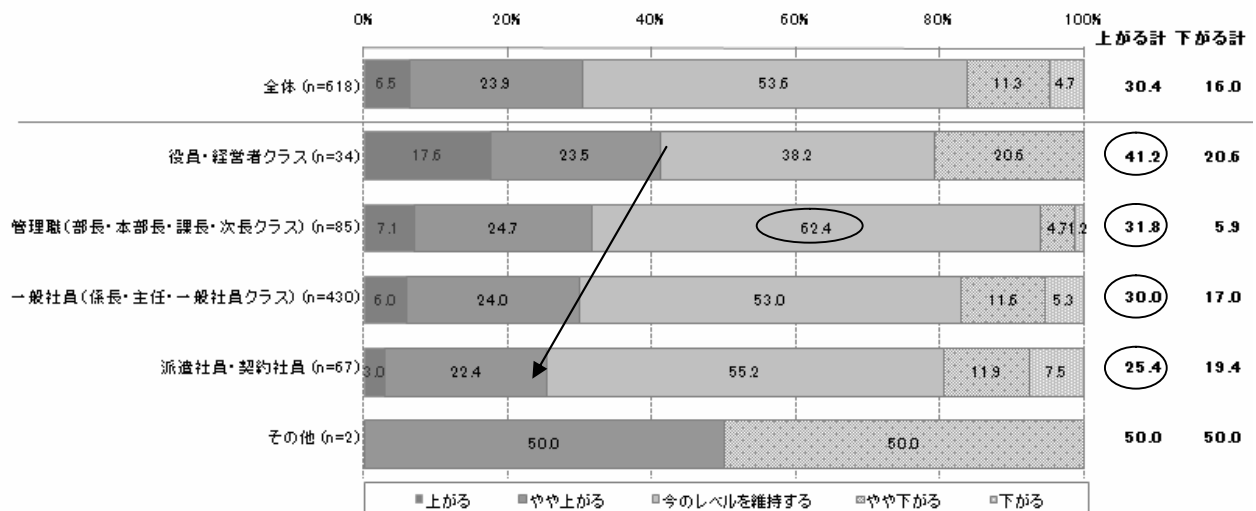
また、役職別に見ると、「役員・経営者クラス」では、41%がモチベーションは「上がる」と答えています。一方、「管理職」は、「現状維持」が62%と最も多く、「上がる」人は32%。以下、「一般社員」で「上がる」人は30%、「派遣・契約社員」で25%と役職が下がるにしたがってモチベーションが「上がる」人は減少していきます。【図4】

職場で、役職によるモチベーション格差が発生している様子がうかがわれます。

【図3】2011年のモチベーション



【図4】役職別の2011年のモチベーション



【3】金融・保険業、情報通信業のモチベーションは高め、上昇予想。

2011年のモチベーションを業種別にみてみました。

モチベーションが「上がる」と答えた人が、もっとも多いのは「金融・保険業」で41%。「金融・保険業」は、モチベーションが「下がる」と答えた人も6%でもっとも低く、また、100点満点での点数化でも、平均72.0点と、業界内トップでした。

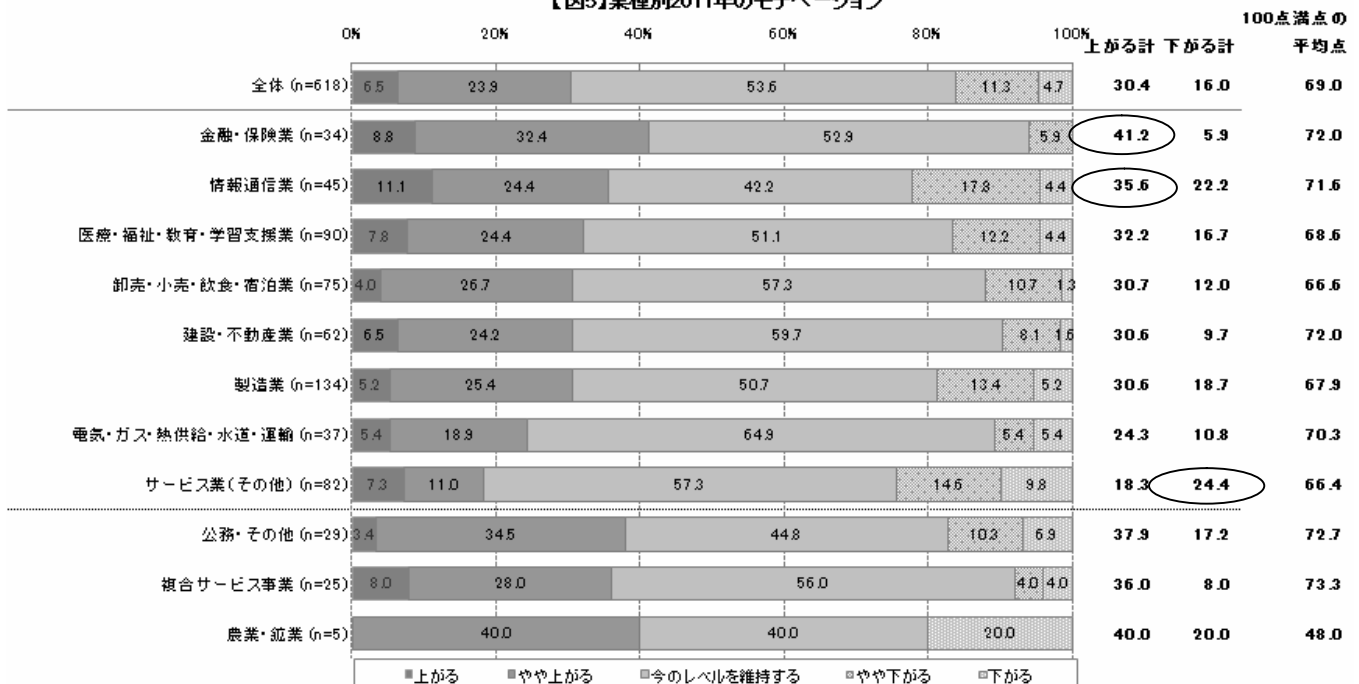
情報通信業が、次いで「上がる」の割合が高く、平均点も71.6点と高めです。

逆にモチベーションが低下傾向にあるのが「サービス業」*でした。「上がる」と答えた人が18%に対して、「下がる」と答えた人が24%と、唯一、「下がる」が「上がる」を上回りました。また、100点満点での点数化でも、平均66.4点と、業界内でもっとも低い値でした。

業界別の2011年のモチベーションは、金融保険業、情報通信業で、高め、上昇、サービス業で低め、低下が予想されます。

*「サービス業」には、職業紹介、人材派遣、機械修理・整備などが含まれます。

【図5】業種別2011年のモチベーション



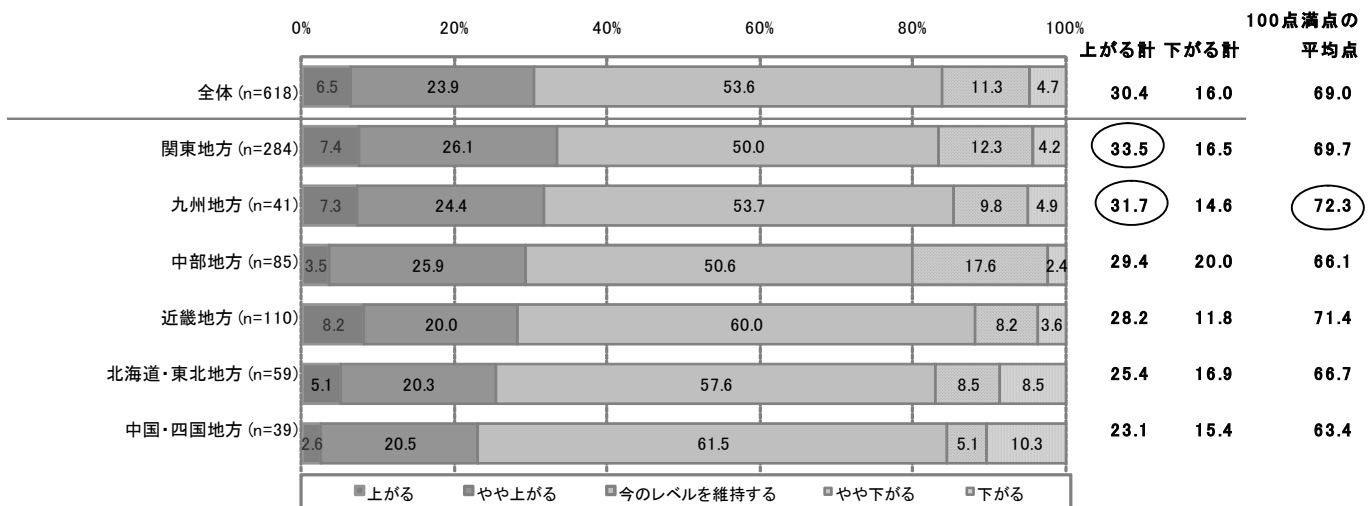
※「上がる計」の値で降順ソート
n数=30未満はソート対象外

**【4】モチベーションがもっとも「上がる」地方は関東地方、九州地方。
企業規模との関連はなし。**

2011年のモチベーションを地方別に見ると、「関東地方」が「上がる」人が34%と全国で一番高い結果となりました。「九州地方」は32%と2番目に高く、また、100点満点での点数化でも平均72.3点と日本で一番高い値を記録しました。逆に、モチベーションが「上がる」人が少ないのは「中国・四国地方」で23%、「北海道・東北地方」で25%でした。100点満点の点数化でも、「中国・四国地方」が63.4点と地方の中でもっとも低く、「北海道・東北地方」も66.7点と3番目に低い値でした。2011年のモチベーションは、関東、九州地方で高め、上昇予想、中国・四国、北海道・東北地方で低め、低下の予想といえます。

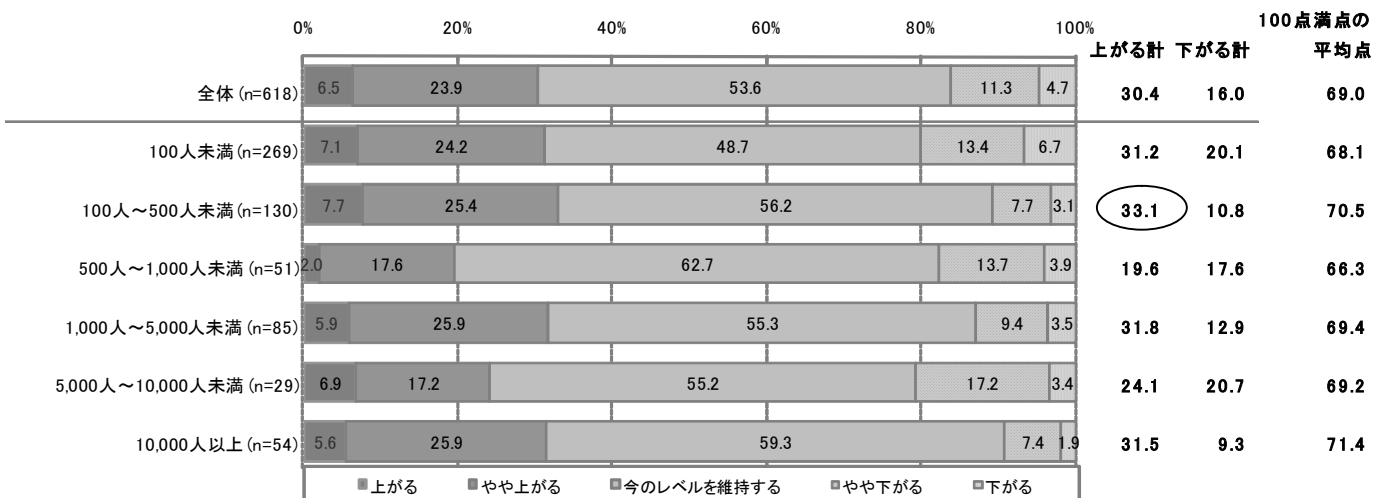
企業規模別では、「100～500人未満」の規模に勤めている人がモチベーションが「上がる」人が33%、「下がる」人が10%前後とモチベーションは前向きな傾向が見られます。「10,000人以上」では、100点満点での平均点が71.4点と、企業規模別の中ではもっとも高い値でした。しかし、そのほかは、企業規模の大きさにともなう傾向性などは見られませんでした。大企業ほどモチベーションが高まる、あるいはその逆、などの、企業規模とモチベーションとの関連性はないようです。

【図6】地域別2011年のモチベーション



※「上がる計」の値で降順ソート

【図7】企業規模別2011年のモチベーション



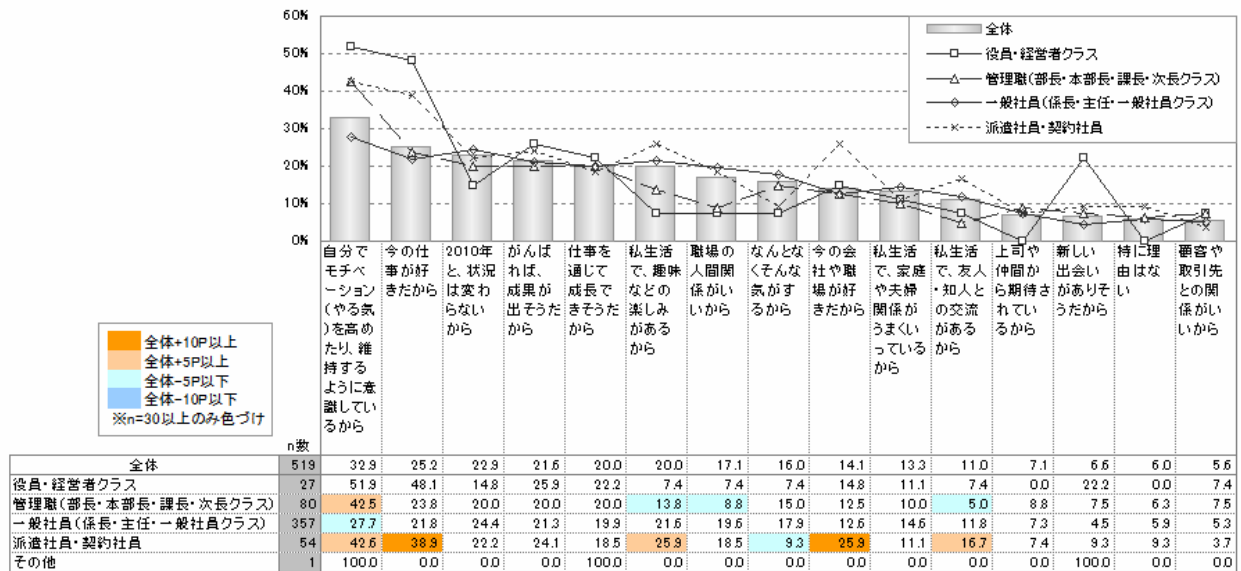
【5】モチベーションが上がる理由は「自分でやる気を高めたり維持するよう意識するから」「今の仕事が好きだから」

モチベーションが「上がる」もしくは「今のレベルを維持する」理由で、もっとも多かったのは「自分でモチベーション(やる気)を高めたり、維持するよう意識しているから」で33%、次いで「今の仕事が好きだから」で25%でした。意識すること、「好き」という気持ちがあること、といういずれも自分自身に関わるものが2大要因となりました。興味深いことに、「役員・経営者クラス」と「派遣社員・契約社員」で、この二つの回答が、特に多い傾向が見られました。「役員・経営者クラス」と「派遣社員・契約社員」は、ともに、自分で意識してモチベーションを高め、また、仕事が好きだから、モチベーションが上がるという共通点を持っていることがわかりました。【図8】

業種別では、「金融・保険業」で「私生活で、趣味などの楽しみがあるから」が多く、「情報通信業」で「がんばれば、成果が出そうだから」が多い傾向がありました。これが、両業種のモチベーション上昇傾向の理由の一つと考えられます。

モチベーションが「上がる」理由の自由回答の中には「転職するから」という記述が散見されたほか、「自分の技術力が上がると思うから」といった自身の努力に関係した内容や、「やる気のない上司が辞めそうだから」といった環境の変化に関する内容など、それぞれの事情を反映したコメントがありました。

【図8】モチベーションが上がる理由(トップ15)



※全体の値で降順ソート

【図9】モチベーションが「上がる」理由

主な自由回答	性別	年齢
今年、失敗したから。	男性	27
転職する予定だから	男性	27
転職するから	男性	33
新しい仕事とめぐり合えたから	男性	43
転職するので	男性	50
自分の技術力が上がると思うから	男性	51
育休明けで復帰するから	女性	28
早く帰って家事をしたいので、集中して仕事を片付けようと思うから	女性	30
今の会社を辞める予定だから	女性	31
転職をする予定だから	女性	31
資格試験に合格したから。	女性	34
頑張らないと会社が危ない	女性	40
転職しなければだから	女性	43
部下が増える予定だから	女性	45
やる気のない上司が辞めそうだから	女性	50
転職の選択肢はないので	女性	53
新しい事業を立ち上げる準備をするから	女性	54
社長が代わった	女性	55

【図10】モチベーションが「今のレベルを維持する」理由

主な自由回答	性別	年齢
最低現状維持	男性	46
仕事しても評価してくれない。	男性	58
今よりも下がったらヤバイ	女性	30
現在産休中で復帰予定であるが、育児と仕事、家事と両立していかなければならないので。	女性	31
維持するのも難しいくらいなので。。	女性	45
愛犬	女性	48

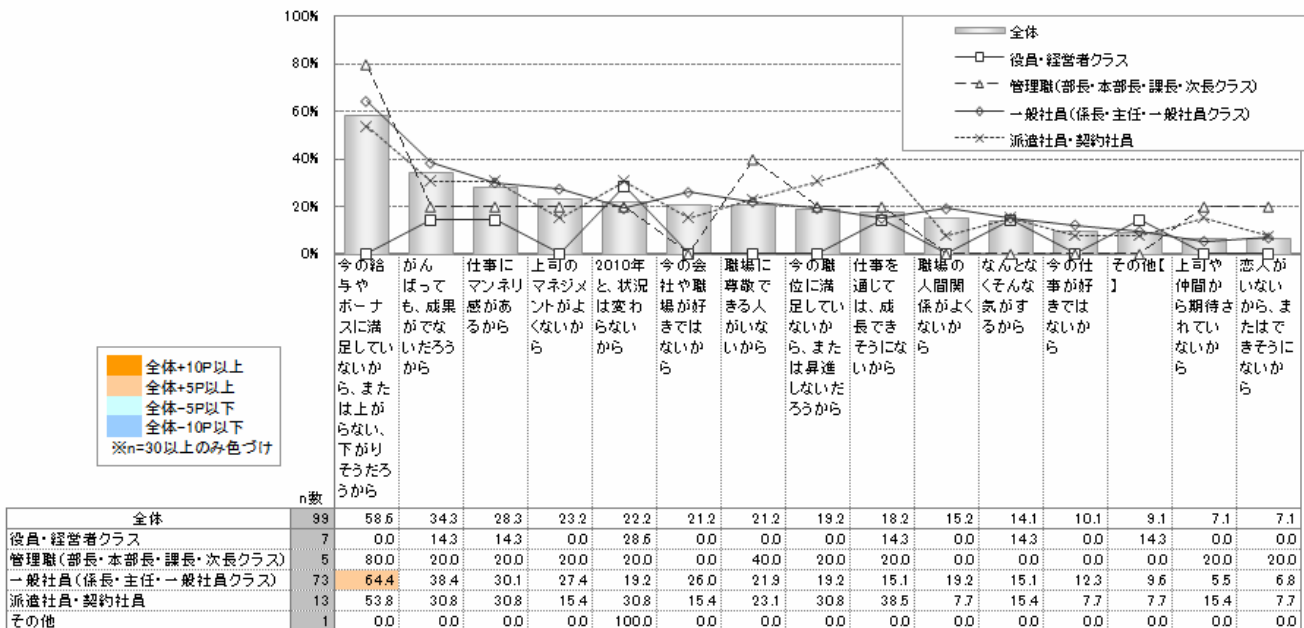
【6】モチベーションが下がる理由は「給与やボーナスに満足していないから」

モチベーションが「下がる」理由でもっとも多かったのは、「今の給与やボーナスに満足していないから」で59%が選択しており、2番目に多い「がんばっても成果が出ないだろうから」の34%を大きく上回りました。【図11】

「給与」などの待遇は、不満の原因となる「衛生要因」であるというモチベーション研究がありますが、まさにその研究の内容を反映した結果となりました。

モチベーションが「下がる」理由の自由回答の中には「社の業績が悪く人員削減になりそうだから」や「今の部署が廃止になり、移動になる為」など、切実な内容が見られました。【図12】

【図11】モチベーションが下がる理由(トップ15)



※全体の値で降順ソート

【図12】モチベーションが「下がる」理由

主な自由回答	性別	年齢
業務量が多すぎて自分の時間がない	男性	30
今の部署が廃止になり、移動になる為	女性	25
育児を優先するので	女性	35
私生活で忙しくなりそうだから	女性	37
仕事上の上司よりお稽古事の師匠のほうが自分の実力を認めてくれるから	女性	47
会社の業績が悪く人員削減になりそうだから	女性	47
斜陽産業で給料が下がり続けるから	女性	55
職探しの年だから	女性	56
2期連続赤字で会社を解散か縮小する為	女性	59

【7】モチベーションアップのためには「とりあえず仕事にとりかかる」「信頼できる仕事仲間と話をする」。

モチベーションを上げるためにやっていることを聞いたところ、「とりあえず仕事にとりかかる」が48%ともっとも多く、次いで「信頼できる仕事仲間と話をする」が35%で、3位の「友人と飲みに行く」の16%を大きく上回りました。

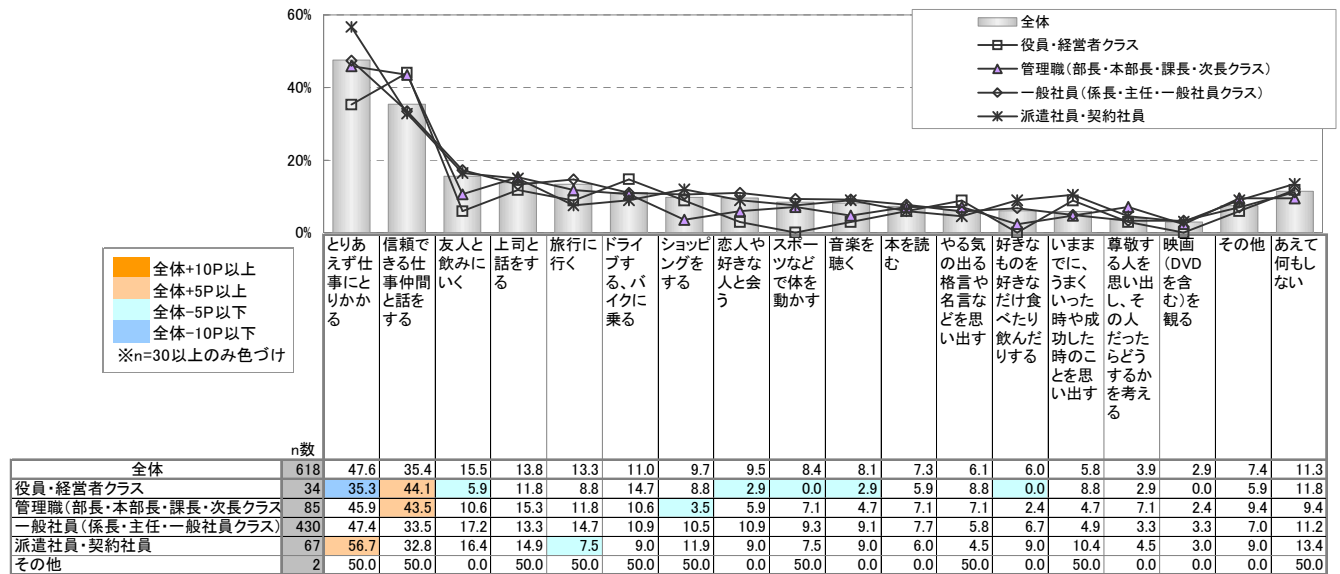
多くの人は、仕事以外で発散したり、楽しんだりするよりも、まずは仕事にとりかかり、また、信頼できる仲間と話をし、モチベーションを上げていることがわかりました。【図13】

一方で、「旅行」(13%)、「ドライブ」(11%)、「ショッピング」(10%)、「恋人と会う」(10%)、「スポーツ」(8%)、「音楽」(8%)、「読書」(7%)などもモチベーションアップに活用されている様子もうかがわれました。

具体的には、「ハワイで買い物をし、お金を使い、また、来るには稼がないといけないという気持ちにする」(男性、44歳)、「お客様のお喜びの声を思い出す」(女性、25歳)、「司馬遼太郎の小説(を読む)」(男性、55歳)など、さまざまな工夫で、モチベーションを上げているようです。

【図14～図24】に自由回答の一例を記載。

【図13】モチベーションアップのためにしていること



※全体の値で降順ソート

◆主な自由回答【図14～図24】

【図14】旅行に行く先・一緒に行く人

主な自由回答	性別	年齢
温泉	男性	29
ハワイで買い物をし、お金を使い、また、来るには稼がないといけないという気持ちにする	男性	34
一人で海外に行く	男性	38
日常で無いような場所に家族で	男性	41
一人で海釣り旅	男性	61
1人でも友達とでも、ヨーロッパ方面に行く	女性	28
女友達と離島や温泉旅行。彼氏と自然の多い場所にドライブ。	女性	30
国内でリラックスできる旅行を友人と	女性	32
一人か娘と二人で近県にドライブする	女性	50
主人と、温泉旅行に行く。	女性	56

【図15】買物をする品

主な自由回答	性別	年齢
服	男性	28
趣味に関わるもの	男性	28
IKEAで家具を買う	男性	32
カジュアルな服	男性	38
服、本、漫画	女性	23
衝動買いなので何をかうか分からない	女性	24
日頃欲しいと思っているものを思い切って購入する	女性	29
ウインドーショッピング	女性	34
化粧品(アイシャドウ)	女性	47
洋服	女性	52

【図16】具体的なスポーツ名

主な自由回答	性別	年齢
フットサル	男性	26
ゴルフ、テニス	男性	27
登山、ダイビング、居合い	男性	29
バスケットボール、野球	男性	33
スクーバダイビング	男性	46
ランニング	女性	26
30分フィットネス	女性	34
テニス・空手	女性	41
dance・スカッシュ・Yoga	女性	53
ウォーキング	女性	63

【図18】具体的な本のタイトル

主な自由回答	性別	年齢
自己啓発本	男性	30
ビジネス書全般	男性	34
経営書	男性	42
司馬遼太郎の小説	男性	55
マネジメントに関する書籍	男性	62
ミステリー	女性	23
自己啓発	女性	26
ビジネス関係の本	女性	27
心理学(加藤氏・斉藤氏など)	女性	45
ラブストーリー	女性	49

【図20】食べたり飲んだりする好きなもの

主な自由回答	性別	年齢
スイーツ	男性	32
食べ放題や、バイキングの店に行く	男性	33
いつも飲めない高い酒を飲む	男性	38
寿司、焼肉	男性	45
チーズ 肉料理 パスタ ケーキ	男性	46
ケーキ等のデザート。	女性	28
ワイン	女性	30
高級なチョコ	女性	32
ワイン、イタリアン、ケーキ	女性	32
高級フレンチ	女性	47

【図22】尊敬する人物

主な自由回答	性別	年齢
以前の上司	男性	28
前職の課長さん	男性	31
大学の創立者	男性	42
上杉鷹山	男性	56
西郷隆盛	男性	60
佐藤卓、三枝匡	女性	27
父 自分に厳しく他人に優しく	女性	28
ミハエル・ゴルパチョフ	女性	28
父	女性	45
イチロー選手	女性	45

【図24】その他

主な自由回答	性別	年齢
具体的なゴールをより鮮明に設定する。	男性	30
主治医のアドバイスをメモした手帳を読み返す	男性	30
ギャンブルをする	男性	38
成功をなるべくリアルにイメージする。	男性	43
音楽を演奏する。ジャズセッションに行く。	男性	46

【図17】具体的な曲名

主な自由回答	性別	年齢
UVERworld	男性	26
ジレンマ	男性	32
好きなアーティストの曲	男性	45
ジャズ バップ	男性	46
カントリー	男性	61
j-pop(KARA)やクラシック(ベートベン)。	女性	26
レディ・ガガの曲すべて	女性	32
大好きなロック。ソニックユースのダーティ	女性	38
UNICORNの曲全般	女性	42
韓国ドラマのテーマ曲	女性	63

【図19】やる気の出る名言・格言

主な自由回答	性別	年齢
これまで悩んだもののうち98%が取り越し苦労だった	男性	28
好きこそ物の上手なれ	男性	31
疲れた、もうだめだでは変わらない	男性	40
戦い続けた人が勝つ	男性	50
人間至る所青山あり	男性	62
なんとかなる	女性	27
月は満ために欠けることを恐れない	女性	35
一歩引けば世界が違って見える	女性	51
完璧な人はいない	女性	58
強くなければ生きていけない、優しくなければ生きていく資格はない	女性	59

【図21】思い出す成功体験

主な自由回答	性別	年齢
自分の思い描いた通りに物事が進んだとき。	男性	27
大きいイベントを成功させたときこのこと	男性	40
仕事の契約を取れたとき	男性	43
プロジェクトの成功例を思い出す	男性	60
仕事がうまくいったとき	男性	61
お客様のお喜びの声を思い出す	女性	25
初めて自分が担当した仕事が終わったとき	女性	28
感謝されたとき、子どもの成長が感じられたとき	女性	29
他の人ではこなせない、自分だけにしかこなせない仕事を与えられた時。	女性	38
面接に受かったとき、試験がうまくいった時	女性	41

【図23】具体的に見る映画

主な自由回答	性別	年齢
グレンラガン	男性	26
トップ・ガン	男性	35
SF映画	男性	40
アクション物	男性	43
ロッキー	男性	51
HEDWIG AND ANGRY INCH	女性	30
米ドラマ(バーンノーティス)	女性	38
韓国ドラマ	女性	41
ピクサーのウォーリー	女性	59
フランスワオゾン作品	女性	59

【8】2011年の目標は「確実に、安定した仕事」と「仕事と私生活のバランス」

2011年の仕事についての目標を聞いたところ、「確実に安定した仕事をしていきたい」が43%、「仕事と私生活のバランスを取ることを大切にしたい」が42%となりました。もっとも選ばれなかったのは、「独立・起業したい、または、その準備をしたい」で7%、次いで「社内外の人脈を広げ、さまざまな人と一緒に仕事をしたい」で8%でした。

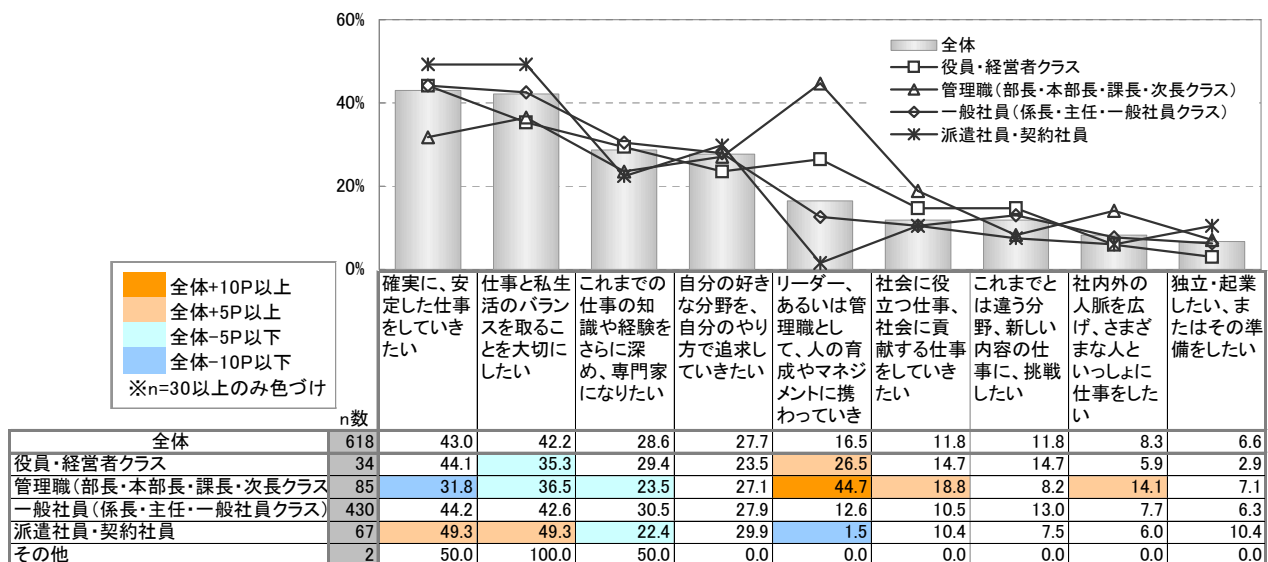
経済環境がまだまだ不透明な中、独立したり、人脈を広げたりするよりは、安定した仕事をしたい、また、仕事だけではなく私生活も大切にしたい、という働く人の意識が表れた結果となりました。

「確実に安定した仕事をしていきたい」、「仕事と私生活のバランスを取ることを大切にしたい」が多い傾向は、「派遣社員・契約社員」「女性」で、特に強く出ていました。

「管理職」は「人の育成やマネジメントに携わっていききたい」が45%と突出し、他の役職と違う傾向を示しました。他にも「社会に役立つ仕事、社会に貢献する仕事をしたい」(19%)や「社内外の人脈を広げ、さまざまな人と一緒に仕事をしたい」(14%)なども高く、「管理職」は他の層に比べて高い志を持って新年を迎えているようです。

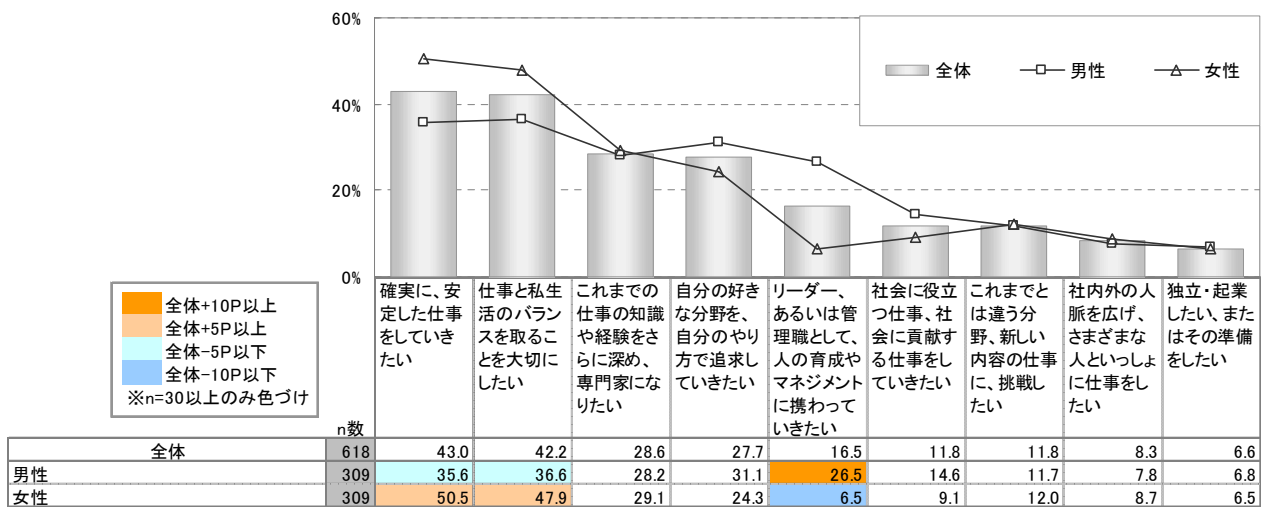
【図25-1】

【図25-1】2011年の目標



※全体の値で降順ソート

【図25-2】2011年の目標(男女別)



※全体の値で降順ソート